システムバスルームヒューメリアと給湯機器の対応

ヒューメリアは屋外と浴槽間には、３つの壁があります。

①建築外壁

②システムバスルーム壁パネル

③浴槽壁

自然循環方式による追焚きの場合、この３つの壁を循環パイプが貫通し各部でシールすることが必要ですが、壁パネル貫通部に対して、スペースや距離の関連で内部からのシールが出来ず、漏水の危険性があります。従って追焚きが必要な場合は、設置フリータイプ（遠隔追焚）のふろ給湯器をご使用いただくことになります。

※ただしヒューメリア1.25坪タイプ１階用（BPD-1620）は自然循環方式が可能です。

ヒューメリアにふろ給湯器を設置する場合は、ユニット用各種部品が給湯器部品として準備されています。(但し、給湯器扱い）詳しくは専用カタログをご参照ください。

※石油給湯機との接続は

ガス給湯器接続の場合より、Ｌ曲り銅管（TBH-2L）が多く必要です。

ペアチューブの気密試験

●ペアチューブを機器に接続する前に必ず気密試験を行ってください。

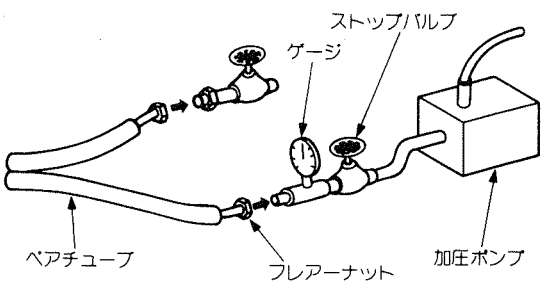
①循環アダプターの循環フィルターを外し、洩れ検査金具を循環口にねじ込みます。

②加圧ポンプで圧力をかけます。

水圧0.10MPa{1.0kgf/㎠}……５分間

③試験後、洩れ検査金具を外し循環フィルターを循環口にはめこみます。

(注)機器本体及びペアチューブの配管に0.15MPa{1.5kgf/㎠}以上の圧力をかけないでください。



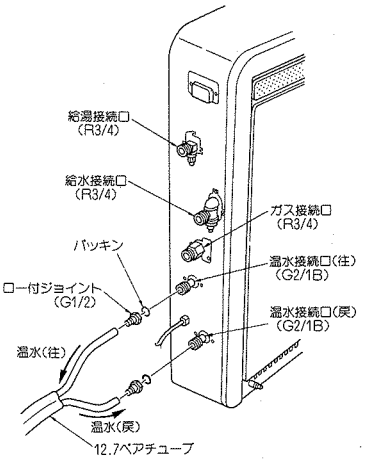
ペアチューブと機器への接続

①12.7ペアチューブにロー付ジョイントをロー付けし、パッキンを入れ、機器の温水（往）および温水（戻）接続口に接続します。このとき温水（往）と温水（戻）を間違えないようにしてください。(ロー付ジョイントとパッキンは循環アダプターに付属しています。)

●配管を接続する前に必ず気密試験を行ってください。

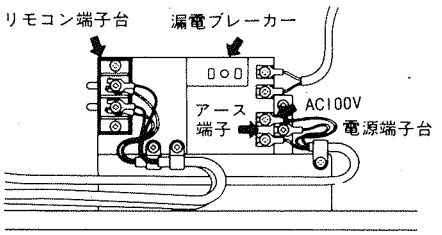
⚠注意
●配管は保温材で覆ってください。また厳寒地、寒冷地の場合は配管ヒーターを巻くなど十分な凍結対策を行ってください。

●隠ぺい部分での配管接続はしないでください。



⚠注意
●リモコンの接続

最近の給湯器のリモコン線は２芯で、しかもプラスとマイナスの極性はありません。したがって施工上のポイントは、リモコン線（DC24V以下）と電源線（AC100V）の接続端子をとり違えないことです。

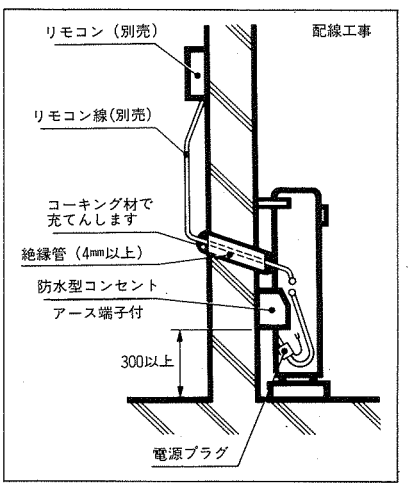


⚠注意
●配線工事

①コンセントはアース端子付防水コンセントを使用し、排気のあたる位置、水抜き栓からの水があたる位置への設置は避けてください。

②電線はガス管、給湯・給水管と接触しないよう、設置してください。

③電線を屋内に配線する場合は、雨水侵入防止部材を使用する等の防水処理を行ってください。



3.試運転

●給湯器の取扱説明書に基づいて、試運転を行います。

⚠注意
●屋外設置型給湯器には、電気ヒーターによる凍結防止装置が内蔵されていますが、建物が完成してから、入居するまでの期間は、通電がストップする場合が多いため、冬期は試運転が終わりましたら、給湯器の水抜きをしてください。